

## 第4章 施設整備計画

### 4-1 基本的な考え方

新生美術館の使命と基本方針、必要な事業活動等を実現するための施設については、近代美術館の資産やこれまでの実績をさらに生かすことを前提に、現在の施設（以降、「既存館」という。）の活用を基本としつつ、施設面積や機能面で課題や制約に対応するため、新たな施設（以降、「新館」という。）も増設します。

美術館の施設や空間は、それそのものも、いわば美術作品の一つとして、利用者と美との出会いを演出する重要な役割を持っています。そこで、既存館と新館とを合わせ、新生美術館としてのコンセプトを魅力的に表現することが必要です。

また、すべての人にとって使いやすく、居心地がいい、社会に開かれた広場としての機能と、文化財を始め県民共有の財産ともいふべき貴重な作品を、安全かつ確実に守る機能の双方を、動線や空間を分離することなどにより、確実に両立させることが求められます。

### 4-2 施設整備の方針

#### （1）施設整備の内容

- ① 現在の近代美術館の施設・設備（既存館）の改修
- ② 新たな空間や設備を備えた施設（新館）の増設
- ③ 新生美術館の整備に関連するびわこ文化公園の改修

#### （2）施設整備の要件

- ① 新生美術館に求められる機能を十分に満たすことのできる空間や設備を備える
- ② 芸術表現の多様化や県民等の利用ニーズを踏まえ、広範な活動や柔軟な利用形態に対応できる空間や設備を備える
- ③ 文化財等の貴重な作品を良好に保管・展示できる環境を確保する（文化庁公開承認施設の継続）
- ④ 新生美術館にふさわしいデザイン性を備える
- ⑤ 現在の近代美術館の施設・設備の活用と長寿命化を図る
- ⑥ びわこ文化公園および公園内各施設の利用状況を踏まえ、利便性と魅力の向上を図る
- ⑦ 整備や今後の運営に要するコストの節減を徹底する
- ⑧ 誰もが安全で快適に利用できるユニバーサルデザインに基づく整備を行う
- ⑨ 省エネルギー化と再生可能エネルギーの活用を進めるとともに、整備や今後の運営にかかる環境負荷を低減する
- ⑩ 耐震・免震対策など、利用者と作品の安全確保に十分配慮する

## 現在の近代美術館の施設概要

### ○施設の概要

敷地面積： 18,288.8 m<sup>2</sup>

規模構造： 鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造  
地上2階 地下1階

建築面積： 6,772 m<sup>2</sup> 延床面積：8,544 m<sup>2</sup>

展示室 2,243 m<sup>2</sup>（常設展 869 m<sup>2</sup>, 企画展 896 m<sup>2</sup>,  
ギャラリー478 m<sup>2</sup>）、収蔵庫 849 m<sup>2</sup>、講堂、  
ワークショップルーム、事務棟 ほか

設計監理： 滋賀県土木部建築課・株式会社日建設計

工期： 昭和57年3月18日着工 昭和58年10月15日竣工

総工費： 約35億円

開館： 昭和59年8月



### ○特徴

- ・びわこ文化公園都市構想における「びわこ文化公園」（文化ゾーン）の豊かな環境の中にある
- ・ロビー、展示室、県民ギャラリー、講堂など、来館者のための主な機能が平面（1階）に展開されている
- ・貴重な作品を良好かつ安定した環境で保存できるよう、収蔵庫を地下に設置している
- ・国宝・重要文化財の公開承認施設として、文化庁より承認を受けている

### ○主な課題

近代美術館の施設は開館以来、大規模な改修等を行っておらず、下記のような課題がある。

- ・収蔵庫が既に満杯で、今後の収蔵品の増加に対応できない
- ・展示室の面積が狭く（全国都道府県立美術館45館平均3,229 m<sup>2</sup>に対し2,243 m<sup>2</sup>）、天井高も低いため、展覧会の大型化や現代美術のインスタレーション（空間展示）等に対応できない
- ・設備（照明、空調、情報関連等機器類）や展示内装、施設外装が老朽化している
- ・創作活動や情報提供、交流等を行うスペースや機能が不足している
- ・レストラン（現在休業中）など、利用者に提供するアメニティ機能が貧弱である
- ・びわこ文化公園駐車場の収容台数の不足や、バス停や駐車場からの距離が遠いことなど、利便性に課題がある

## 4-3 施設の概要

### (1) 部門ごとの諸室の構成の想定

新生美術館の機能の実現のために必要な諸室と、その面積の想定については以下のとおりです。

今後、建築設計を進める中で、既存館と新館を合わせた新生美術館全体として、これらの諸室の詳細な面積や配置等を検討していくこととなります。

### 必要な諸室の想定

単位：㎡

展示部門	主な考え方		床面積 （美術館 検討全体 の想定）	積現在の 近代美術 館床面積
	主な室構成	各室の概要		
	展示室	<ul style="list-style-type: none"> <li>過去から同時代までの滋賀の美を一度に鑑賞できる展示を行う</li> <li>それぞれの作品の魅力を引き出す内装や照明機器等を備えた展示空間を用意する</li> <li>展覧会の大型化や、芸術表現の多様化等に対応した展示室を新たに設ける</li> <li>国宝・重要文化財を展示する展示室を中心に、公開承認施設としての条件を満たす環境を整備する</li> <li>既存館の展示室は、内装（ガラスケース、展示パネル等）や照明等の必要な改修を行う</li> </ul>		
県民ギャラリー	<ul style="list-style-type: none"> <li>県民の皆さんの創作活動の成果を発表する場として、使いやすく制約の少ない展示環境と、搬入出経路等を確保する。</li> </ul>			

学習・交流・連携部門	主な考え方		（新生美術館全体の想定床面積 検討中）	現在の近代美術館床面積
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・滋賀の「今」と双方向につながり、多くの利用者に関われた新生美術館を象徴する部門として、情報やサービスの提供、県民や団体の学習や研究、交流、連携による活動が活発に行われる施設機能を提供する</li> <li>・特に神と仏の美やアール・ブリュットについては、情報の提供と学習、交流の拠点としての役割を果たす</li> <li>・展覧会と連動して、ワークショップや講座など充実したプログラムが展開できる施設を設ける</li> <li>・作家による創作活動の過程に県民が立ち会えたり、若手による実験的な創作・展示が可能なスペースなどを確保する</li> <li>・子どもや家族連れなど、幅広い来館の促進や、美術館で過ごす時間をゆったりと楽しめるサービス機能を充実させる</li> </ul>			
	主な室構成	各室の概要	1,500	567
	情報・交流室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書架と有人カウンター、情報端末機器等を備え、滋賀の美と、自然や歴史、暮らしまでを含めた関連の図書やデジタルコンテンツ等の検索と閲覧ができるほか、滋賀の美に関する様々な相談や問い合わせに対応する</li> <li>・県内各地の美に関する最新の情報や観光情報等の提供を行う</li> <li>・神と仏の美、アール・ブリュットについては、情報発信や学習のコーナーを設ける</li> <li>・県民や団体の学習や交流活動が行えるよう、テーブルや椅子を配置する</li> </ul>		
	協働室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアや県民団体等が活動するための準備や打合せ等を行う</li> </ul>		
	ワークショップ・研修室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なワークショップや研修・講演等を行う</li> <li>・多くの利用者が参加できるよう、机・椅子を配置するとともに、水回りや収納棚を備える</li> </ul>		
	創作室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が作家による作品の創作過程に立ち会ったり、一緒に参加できたりするための創作スペース。水回り等を備える</li> </ul>		
	講堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な講演や研修、音楽会などを行う。学校団体等の休憩・飲食スペースとしての活用も行う</li> </ul>		
	レストラン・カフェ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者がゆったりと時間を過ごせるための飲食スペースとする</li> </ul>		
キッズルーム・託児室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの探究心や好奇心を刺激し、美術への理解を深める体験型の展示や資料の提供を行うとともに、託児スペースを併設する</li> </ul>			
ミュージアムショップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美に関連した商品や、県内の生産品や作家の作品等の販売を行う</li> </ul>			

収蔵部門	主な考え方		面積 新生美術館 （検討中） 全体の 想定床	現在の 近代美術館 床面積
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの近代美術館の収蔵品に加え、現在琵琶湖文化館で収蔵されている仏教美術等の作品や、アール・ブリュット、若手作家等の作品を収蔵するとともに、今後の寄託や寄贈等の増加に対応し、スペースを拡張する。</li> <li>・国宝・重要文化財をはじめ、貴重な美の資産を良好かつ安全に保管し、確実に次代に引き継ぐため、作品の材質や性質等に応じて、適切な保存環境を確保する</li> <li>・既存館においては、収蔵庫の改修、作品運搬用エレベータの更新（大型化）等の必要な工事を行う</li> </ul>			
	主な室構成	各室の概要	3,400	1,347
	収蔵庫	・作品の材質や性質等に応じて、複数の収蔵庫を設置し、適切に保管できるスペースと、それぞれに適した空調や内装などの保存環境を確保する		
	前室	・収蔵庫から作品を出し入れする際のならしや整理作業等のため、収蔵庫の一部として一体的に整備する		
	搬入口・荷解室	・美術輸送用大型車が乗り入れ、作品の搬出入や荷解きを行う		
	一時保管庫	・展示や収蔵用作品の受入れや整理を行う		
	資材室	・梱包資材等を保管する		
	点検室	・搬入・貸出作品の点検を行う		
燻蒸室	・収蔵庫に入れる作品の虫菌害防止のための処置を行う			

調査・研究部門	主な考え方		積体 新生美術館 （検討中） 床面積 全	術現 館在 床の 面代 積美
	・学芸員などによる専門的で幅広い調査研究活動に対応した機能を備える			
	主な室構成	各室の概要	500	224
	資料室	・琵琶湖文化館からの移管にも対応し、書籍を始めとした関連資料の保管を行う		
	情報処理室	・データ整理や編集・制作などを行う機器を備える		
スタジオ	・作品の写真撮影を行う			
修復室	・仏教美術等の作品の保存修復作業を行う			

管理・共用部門	主な考え方		定 新 生 美 面 術 積 館 ( 検 全 討 体 中 ) の 想	面 現 積 在 の 近 代 美 術 館 床
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記各部門を維持するために必要な機能を確保する</li> <li>・ユニバーサルデザインに基づく整備を行う</li> <li>・省エネルギー化と再生可能エネルギーの活用を進める</li> <li>・耐震・免震対策を行う</li> </ul>			
	主な室構成	各室の概要	6,000	4,163
	ロビー、通路等	・既存施設のエントランスを維持しつつ、新館にも新たにエントランスを設けるとともに、双方のエントランスを結ぶ流動性を確保する		
	トイレ	・既存館については、トイレの全面改修を行う		
	職員執務室	・全ての職員が一体感を持てる執務スペースを確保する		
	館長室			
	会議室			
	警備員室等	・セキュリティに関する機能を備える		
	設備・機械室			
その他	・救護スペースを確保する			
<b>総 合 計</b>			<b>14,900</b>	<b>8,544</b>

## (2) 配置・動線等について

- ・ 各部門・諸室の関連を重視し、利用者にも職員にも使いやすい、管理運営上効率的な配置とする
- ・ 利用者や職員、展示資料と収藏品等の動線が交錯しないよう、その設定に十分配慮する
- ・ 新館側にもエントランスを設け、既存館のエントランスと併せて館内での利用者動線の流動性を確保する
- ・ 公園利用者が気軽に館内に足を踏み入れることができる工夫を行う
- ・ 比叡山や琵琶湖が望める眺望スペースを確保する

## 4-4 新館の整備について

### (1) 立地について

新生美術館は、仏教美術等からこれから見出される最新の美まで、滋賀の美の魅力に一度に出会えることをその使命としています。

さらに、利用者がスムーズな動線で楽しめるために、また、管理の負担を軽減するためにも、既存館と新館ができるだけ近くに立地することが望ましいと考えられます。

このような前提のもと、新館の立地については、既存館の西北側（日本庭園側）を建設予定地とし、敷地面積に限りがあることから、複層階の展開となることが想定されます。また、新館側にもエントランスを設けることで、びわこ文化公園の北および西駐車場からの歩行距離を短縮することが可能になります。

## 新館の建設予定地の概要

位置：びわこ文化公園（都市公園）内に位置する滋賀県立近代美術館敷地および隣接地  
（北西方向・日本庭園側）

敷地面積：最大約 5,000 m<sup>2</sup>

現況：園路と植え込みで構成されるなだらかな傾斜地。日本庭園の池に面している

敷地利用条件：

用途地域 第1種住居地域（容積率 200% 建ぺい率 60%）

高度地区 第3種高度地区（建物高さ 20 m）

都市公園法の建ぺい率 12%（特例値が適用可能（都市公園法第4条））

新館立地候補地位置図



## （2）新館整備にあたっての留意事項

- ・ 新生美術館のシンボルとして、新たな美術館のイメージを内外に発信し、多くの人が訪れてみたいと思う、建築デザインを実現する
- ・ 公園内に位置する美術館として、圧迫感を低減し、周囲の景観と融合すると同時に、景観そのものを現代的にリフレッシュするような存在となる
- ・ 建物の内外の空間的なつながりを表現し、日本庭園（池）側については、内部からの眺望を確保する

## 4 - 5 新生美術館の整備に関連するびわこ文化公園の改修等

---

新生美術館の特徴として、びわこ文化公園（文化ゾーン）の緑豊かで広がりのある空間に立地するという条件（ロケーション）を積極的に生かし、公園そのものが「美の滋賀」の入口として機能するよう、また、美術館へのアプローチとしての高揚感を演出できるよう、外部空間の活用や、近隣施設との連携を進めるとともに、これまでに利用者などから多くの声が寄せられている、アクセスが悪いイメージを改善します。

### （1）外部空間の活用

- ・ 公園内に美術作品、特に子どもが触れて遊べる作品等の屋外展示を行う
- ・ 公園の空間や環境を生かし、屋外空間でのアートイベントを行う。
- ・ 作家による創作空間を緑豊かな公園内に展開するような方策を検討する。

### （2）交通アクセスの改善

- ・ 現在でも週末等に満車となる文化ゾーン駐車場について、新生美術館の想定入場者の増加に伴った収容台数の増加工事を行う
- ・ 駅から美術館玄関近くまでを結ぶ小型バス路線の開設や、バス停の位置等の改善の検討を行う。ただし、公園内のバスの通行については、公園利用者の安全確保策について併せて検討する
- ・ 最寄り駅やバス停などのアクセスルートにおいて、美術館をアピールできるよう、案内表示の改善を行う